第1回　学校運営協議会　議事録

校名	府立　岬高等　学校
校長名	岸野　敏昌

開催日時	令和6年5月24日（金）
開催場所	大阪府立岬高等学校　会議室
出席者(委員)	保井太郎 会長、 島﨑英夫 副会長、 保田智子 委員、 尾保手崇 委員、
	田中茂樹 委員、 中川政文 委員
出席者(学校)	岸野敏昌 校長、 津田等 事務長 、栩原正明 教頭、 長井一也 教頭
	首席2名、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事、保健主事
	学年主任3名、初任者2名
傍聴者	なし
協議資料	令和6年度学校経営計画、スクール・ポリシー
備考	

議題等(次第順)

1.【はじめに】
①学校長挨拶
②学校運営協議会実施要項について
③学校運営協議会委員の紹介
 学校運営協議会　会長・会長代理の選出
2.【連絡及び報告】
①学校長より報告
　令和5年度学校経営計画及び評価について
　令和6年度学校経営計画について
②各部事業報告
3.【協議事項】
①令和6年度学校経営計画について
②スクール・ポリシーについて

協議内容・承認事項等（意見の概要）

1.【はじめに】
①学校長挨拶
岬高校は今年度より多様な教育実践校（ステップスクール）として新たな一歩を歩み始めた。これまで以上に地域連携に取り組んでいく必要がある。また、専門人材（SC、SSW、CC）が充実したことにより、安心して学校生活が送れる環境になっている。本日は様々な観点から忌憚のないご意見を頂戴したい。

②学校運営協議会実施要項について
教頭から説明

③学校運営協議会委員の紹介
教頭から紹介

 学校運営協議会　会長・会長代理の選出
会長：保井様　副会長：島﨑様に決定いたしました。

2.【連絡及び報告】
①学校長より報告
令和5年度学校経営計画及び評価について

前回（令和5年度第3回）の学校運営協議会からの意見の中に食堂に関しての質問があったのでその報告を行った。
現在、食堂の業者が見つかっていないので、3つの代替措置を行っている。
・パンの販売（月2回程度）　・弁当の販売（ネット注文）　・軽食の自販機の設置（7月末までに）

1イ：エンパワメントスクールの教育内容の充実
授業アンケート「授業分析」については目標の数値に到達できなかった。生徒の要望を授業改善に活かしきれなかった。

2（3）オ：キャリア教育の充実（国際感覚の育成）
外国人技能実習生との交流を4回以上行うことができた。

2（4）エ：インクルーシブ教育に向けた取組の充実（支援教育体制の充実）
中途退学率が高く、最も改善が必要な課題である。

②各部事業報告
【教務部】
在籍について
３１８名スタートで転退学が５１名となった。
３月に進級できず転退学する生徒が多かった。
転退学５１名という数字は在籍者数に対する割合としては高い。
昨年度よりも増加した原因は、コロナが5類になったために体調不良等が出席停止にならなかったこと、コロナ禍で休む癖がついてしまった生徒が多かったためではないか。
追認指導などの成績不審者へのフォローを充実させ欠点者の減少をめざす。

令和6年度入学者選抜について
特別入学者選抜（多様な教育実践校）
学力検査（国語、数学、英語）と面接（個人面接または筆答による面接）を実施。定員１５０名のところ合格者数は１２８名で志願者倍率は０．８５倍であった。２次選抜は定員２２名のところ5名合格であった。

【進路指導部】
進路状況について
４３期の進路は就職が約６０％、進学が約３０％であった。

進学について
公募推薦2名は帰国性枠で受験。専門学校一般入試1名は看護学校を受験。

就職について
求人件数４４５件。大阪の南部を中心に生徒に紹介している。
昨年度からスマートフォンで求人を見られるようにした。今後も継続していく予定。
高卒求人のうち技能職が約９０％。

頭髪指導について
今年度より頭髪に関しては多様性を認める形に変更したが、TPOに合わせた頭髪指導を行っていく。
企業訪問について頭髪についての考え方を聞いており、それを生徒に伝えながら指導を行っていく。

【生徒指導部】
指導について
今年度より課題による頭髪指導をなくした。職業体験やジョブチャレンジ、３年次の進路指導を受ける際に自分の判断で変えられるように指導を行っていく。
登下校、休み時間の立ち番指導は継続して行っている。

講演について
高校生の大麻の乱用が増えてきているため、学校薬剤師による講演を実施予定。
SNSの不適切な使用が問題になっているので、訪問型の授業を実施予定。

進捗状況
立ち番の巡回によって校内、登下校での喫煙が減ってきているが、立ち番がいないときにコンビニやドラッグストアの前などでの喫煙はまだ少しある。
昨年度、停学中のSCによるカウンセリングを何度か行ったため、今年度から生徒指導部会にSCに参加していただく予定。
すべての教員が生徒指導を行うために懲戒の事象報告を職員会議で行っている。

〇質疑応答
Q：転退学者が多い要因は？
A：転退学者が多い年度の特徴は遅刻、欠席が多い。１年間の遅刻、欠席が多い年度は1年生の４，５月の本校に入学する時点ですでに学校に来る習慣がついていない。
昨年度は過去11年間で飛び抜けて多い。補習や課題を渡してなるべく転退学者が出ないように取り組んでいきたい。

Q：総合的な探究の時間や系列体験会にはどんなことをするのか？
A：総合的な探究の時間ではフィールドワークを行い、地域の文化や特色を学ぶ。
系列体験会（１年生対象）では7月期末考査後の短縮授業のときに、４つの系列の体験授業を行う。

Q：昔は3年生が下級生の服装指導などを行っていたが、今は教員がすべて行っているため大変ですね。
A：生徒が生徒の指導をするのは理想ではあるが、現状は難しい。しかし、生徒が主体的に行動できるような場面を作っていきたい。例えば、今年度の体育祭では、これまで教員が行っていた準備体操を生徒にさせるなど。

３.【協議事項】
①令和6年度学校経営計画について
校長より説明

中期的目標
【エンパワメントスクールの教育内容の充実】
今年度よりステップスクールとなり、エンパワメントスクールの縛りがなくなるが、モジュールは学びなおしに一定の効果があるので継続して実施している。
また、ステップスクールのミッションである「地域連携」にはこれまで以上に取り組んでいきたい。

【学習活動の充実】
学校生活において授業は最も大切なものと考える。教員同士が授業見学を行える環境を整え、日常的に授業に関して話し合える雰囲気を作りたい。
今年度は岬町から44万円の地域連携の助成金を受けている。また、岬町保有のバスの使用もできる。総合的な探究の時間や系列の授業などで新たな地域連携に関する取組みを開発する。

【キャリア教育の充実】
岬町に今年度から「TOMONI日本語学校」が開校した。留学生との交流を行う予定。

【インクルーシブ教育に向けた取組の充実】
昨年度、中途転退学率が16.1%あり、最も改善する必要がある課題である。普段の授業内容の充実、地域連携を活用した活動、魅力のある学校行事など、生徒が学校に魅力を感じ学校に来ることで、中途転退学率を下げたい。

【働き方改革】
昨年度実施できていなかった会議資料のペーパーレス化は、６月６日の職員会議より実施する。

【地域連携と広報活動】
岬高校のホームページの「enjoy岬」を活用して学校の様子を積極的に発信していく。

②スクールポリシーについて
校長より説明

グラデュエーション・ポリシー（卒業時につけたい力）
「社会で生き抜く力を伸ばす」 → これが岬高校における使命だと考える。

〇提言・質疑応答
Q：転退学者を少なくしていくためには何が必要？
A：魅力的な学校にしていく必要がある。そうすることで生徒たちは学校に来る。今年度はどの学年も出席状況はよい。この状態を続けていけるように取り組んでいく。

・転退学者を少なくするために、子供たち同士のつながりと授業の充実が重要。

Q：家庭の問題もあると感じる。家庭との連携に関しては？
A：どんな些細なことでも連絡はしている。二人担任制になり、より密に家庭との連携を行えるようになった。

・放課後等デイサービスにて運動療育を行っているが、ほとんどの子どもたちは最初は意欲的にしない。それを意欲的にするために、最初はこっちのペースで巻き込んで、知らぬ間に運動しているようにする。それがだんだん自主的にできるようになってくる。

・岬高校の教員は密に生徒、保護者に関わってくれる。様々なご家庭があると思うが、粘り強く関わってほしい。教員からも保護者に対して投げかけをしてほしい。

次回の会議日程	
日時	令和6年10月9日
会場	大阪府立岬高等学校